

1. 改正消防法の概要

ほとんどの住宅(戸建・アパート・小規模マンション・小規模(300m²未満)グループホームなど)に、住宅用火災警報器等の取り付けが義務付けられました。

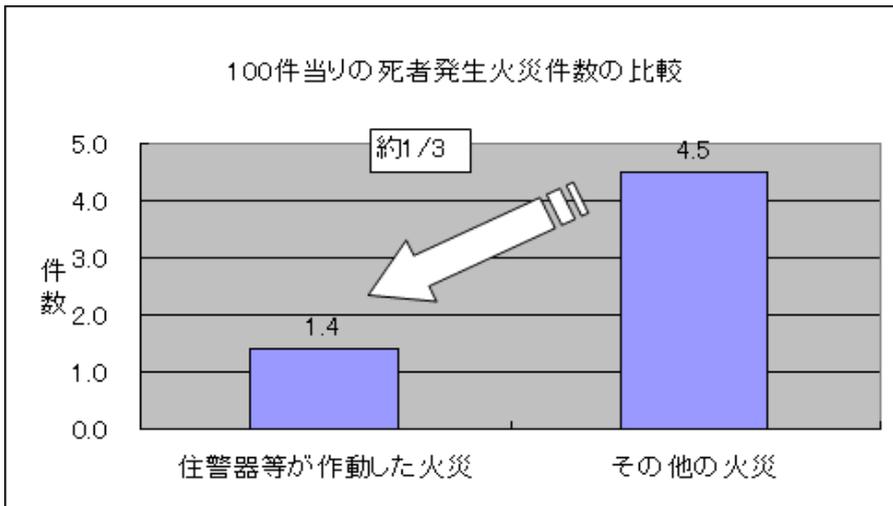
実施時期

- ・新築住宅 平成18年 6月 1日から
- ・既存住宅 各自治体の条例により適用時期(最長平成23年5月31日まで)が定められます。
東京都の場合、平成22年 4月 1日から

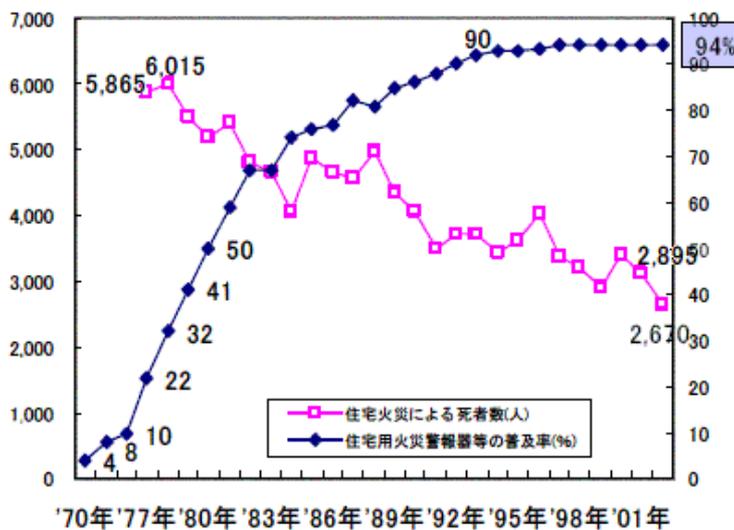
改正の背景

火災で亡くなった方の8割は「住宅火災」から発生しています。そのうち8割は「居室」から発生した火災です。
亡くなった原因の4割は「火災に気付くのが遅れた」ためです。(東京消防庁管内の統計による)

住宅火災100件当たりの死者発生火災件数を比較すると、住宅用火災警報器等が作動した火災が1.4件であるのに対し、その他の火災では4.5件と3倍近い件数となっています。



下記グラフは、アメリカの火災警報器の普及率と死者数の推移です。
普及率の向上に伴い、死者数は激減し、およそ半減まで減少しました。



これにより火災警報器の有効性に対する認識が世界的に高まったことで、北米・ヨーロッパで普及が広がり、さらにそこでも有効性が確認されたことで、日本もやっと法改正にたどり着いたというわけです。

2. 罰則

今回の法改正により、住宅用火災警報器等の設置が義務付けられましたが、違反した場合の罰則はありません。通常、罰則を伴って初めて義務化になるのですが、この法律は罰則のない義務化という特殊な法律になっています。つまり、「自分の身は自分で守る。皆さんが自主的にやってください」という強いメッセージなんです。

3. 住宅用火災警報器等

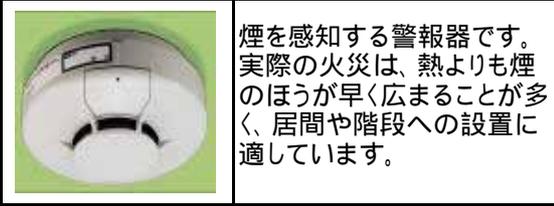
住宅用火災警報器等とは、下記の2つを指します。

○「住宅用火災警報器」	→ 感知部、警報部が一体となった単体タイプの警報器
○「住宅用自動火災報知設備」	→ 感知器、受信機、中継器などから構成されるシステムタイプの警報設備

違いは、住宅用自動火災報知設備は、大掛かりなシステムタイプで定期メンテナンスが必要なのに対し、住宅用火災警報器は、本体の中にすべてが収まった単体機器であり、価格が安価であることが特徴です。通常、この住宅用火災警報器を通常設置します。

4. 住宅用火災警報器の種類

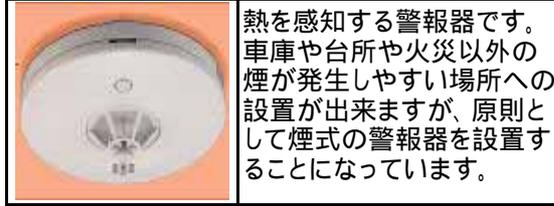
煙式



煙を感知する警報器です。実際の火災は、熱よりも煙のほうが早く広まることが多く、居間や階段への設置に適しています。

家庭用電源式

熱式



熱を感知する警報器です。車庫や台所や火災以外の煙が発生しやすい場所への設置が出来ますが、原則として煙式の警報器を設置することになっています。

電池式



電池切れ警報（音やランプ）が出たら電池を交換します。



家庭用コンセントへの配線が必要です。

5. 警報器の設置場所

設置場所をチェック

① 寝室
就寝に使用する部屋の天井又は壁面に設置します。

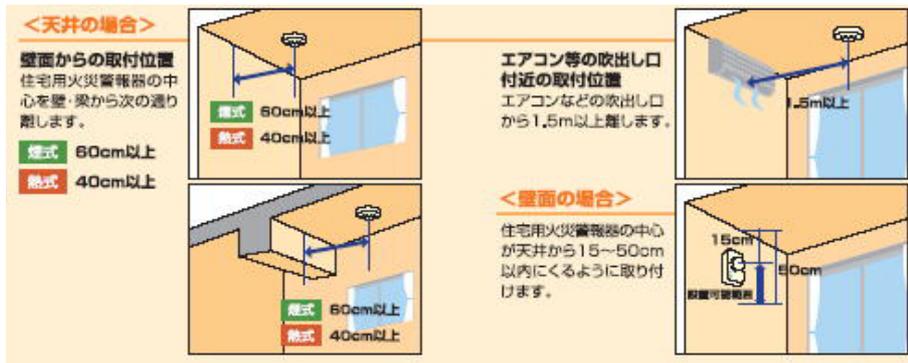
② 階段
就寝に使用する部屋がある階の階段の踊り場の天井又は壁面に設置します。
(ただし、避難路(1階など容易に避難できる階)の階段は除く)

③ 台所
台所の天井又は壁面に設置します。

④ 3階建て以上では
住宅用火災警報器を設置しない階で、就寝に使用しない居室が2階以上連続する場合、住宅用火災警報器を取り付けた階から2階離れた居室のある階の階段に設置します。

⑤ 1階に7㎡(4畳半)以上の居室が5以上ある階には
上記までの基準で、住宅用火災警報器を設置する必要がなかった階で、7㎡(4畳半)以上の居室が5以上ある階には、廊下等に、住宅用火災警報器の設置が必要です。

設置上の注意点



6. 悪質な訪問販売に注意

住宅用火災警報器等の設置義務化に伴い、悪質な訪問販売などのトラブルが発生しています。その場で契約はせず、家族や消費者生活センターに相談しましょう。

なお、次の点にご注意ください。

- ・全ての住宅に**設置が義務付けられた**。**点検も義務付けられている**。など、条例の**内容を偽って**販売する。業者による点検の必要はありません。仕様書でよく確認して普段から点検ボタンなどにより、自ら点検を行う習慣をつけましょう
- ・消防職員のような服装で**消防職員のふりをして販売**する。(消防署が販売することはありません。)
- ・**消防署や区役所の斡旋**を受けて販売している。(特定の業者に販売の依頼や斡旋することはありません)

住宅用火災警報器 (光電式煙感知器)

特 徴



- ・感知部では**光電式煙感知器**を採用
- ・煙感知式のため、台所・車庫を除くすべての部屋に取り付け可能
台所にも取り付け可能な**熱感知器**も取り扱っております。
- ・乾電池式で配線工事不要。ビスでとめるだけの簡単取り付け。
ドライバ - 1本で取り付け出来ます。

メーカー希望小売価格 **5,980円**



詳細仕様

感知方式	光電式煙感知
規格	UL規格#217 準拠
消費電流	待機電流:10uA、警報時電流:10-30mA
感 度	3.2%の煙濃度にて反応
動作確認機能	有り
警報音量	3mの距離で85db(日本基準:1m-70db)
使用温度	-10 ~ +50
電 源	DC9V乾電池
寸法(本体)	105mm(径)、38mm(高さ)
付属品	DC9V乾電池
保 証	1年保証

設置上の注意

<天井の場合>

壁面からの取付位置
住宅用火災警報器の中心を壁・梁から次の通り離します。

煙式 60cm以上
熱式 40cm以上

エアコン等の吹出し口
付近の取付位置
エアコンなどの吹出し口から1.5m以上離します。

<壁面の場合>

住宅用火災警報器の中心が天井から15~50cm以内にくるように取り付けます。

部屋の天井の角は、煙の真空地帯になります。上記取り付け位置をしっかりとご確認ください。

住宅用火災警報器 (イオン式煙感知器)

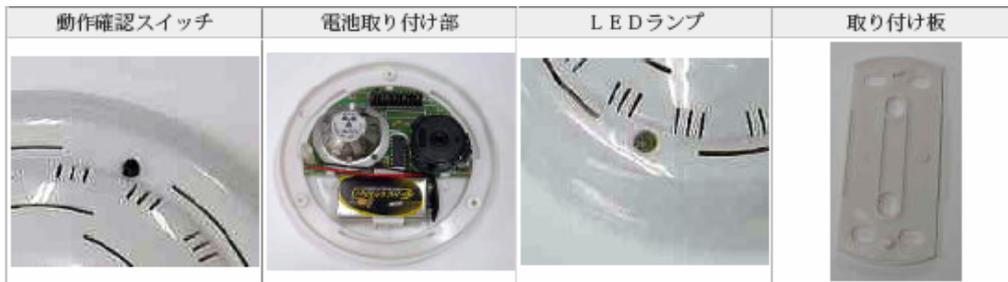
特徴

【新商品】



- ・感知部は**根本特殊化学(株)製イオン式煙感知器**を採用
- ・電池切れ警報付き
- ・小皿タイプのスリムな概観
- ・省電力タイプで、乾電池寿命を長時間確保
- ・乾電池式で**配線工事不要**。ビスでとめるだけの簡単取り付け。
ドライバ - 1本で取り付け出来ます。

メーカー希望小売価格 **6,200円**



詳細仕様

感知方式	イオン式煙感知
感 度	級
消費電流	待機電流: 6 μ A、警報時電流: 40mA
動作状況	通常状態: 40秒毎にLED点滅。 警報状態: LED点滅。
電池切れ警報	電池容量が低下すると、ブザーでお知らせしてくれます。
警報音量	70dB以上
使用温度	-10 ~ +50
電 源	DC9V乾電池
付 属 品	DC9V乾電池
保 証	1年保証

設置上の注意

<天井の場合>

壁面からの取付位置
住宅用火災警報器の中心を壁・梁から次の通り離します。

煙式 60cm以上
熱式 40cm以上

エアコン等の吹出し口付近の取付位置
エアコンなどの吹出し口から1.5m以上離します。

<壁面の場合>

住宅用火災警報器の中心が天井から15~50cm以内になるように取り付けます。

15cm
50cm
設置可能範囲

部屋の天井の角は、煙の真空地帯になります。上記取り付け位置をしっかりとご確認ください。